

楽しく「造形活動」 かけがえのない日常のために ができる



はじめに	2
図工室を活用しよう	3
材料と用具を活用するために	4
活用できる板書を目指そう	5
校内の環境を生かした展示をしよう	6
作品を大切に作る姿を見せよう	7
あとがき	8

● はじめに

小学校学習指導要領の改訂から 6 年、全面実施から 3 年が過ぎようとしています。この学習指導要領改訂のねらいの一つは、予測困難な時代を生きる子どもたちが、さまざまな変化と積極的に向き合い、新たな価値を見出すようにすることでした。まさか、新型コロナウイルスの蔓延や、衝撃的な侵略戦争によって全世界が翻弄され、大きな不安を抱えることになるとは、文字通り予測することはできませんでした。私たちはそうした世界に子どもたちを送り出さなければなりません。そのためには教育の現場で何ができるかについて、今だからこそじっくり考えていく必要があるのではないのでしょうか。

2011 年 3 月、あの東日本大震災のとき、その圧倒的な現実の前で私たちは「図画工作に何ができるのか。」と思い悩みました。しかし、それは杞憂でした。子どもたちは一心不乱に表現に取り組みました。表したい思いがそこにあり、表現することで子どもたちは世界を創造していきました。図画工作を通して目に見えるものや目に見えない想像や心、夢、精神、感情、イメージといったものを可視化・可触化していったのです。今思えば、あのときだからなお、

表したいという思いは大きかったのかもしれませんが。私たち教師も、発想するための支援、構想を練るための支援、つくる技能を高めるための支援を行い、子どもたちの思いを支えようと努力しました。その中で「よさや美しさという価値に向かう意思や伝統文化を共有する人々のつながり」の重要性を再確認し、それをテーマに掲げ、2016 年 11 月「第 69 回全国造形教育研究大会」を 37 年ぶりに宮城県で開催したのです。このことは、皆さんのご記憶にも新しいことと思います。

今、大きな環境の変化の中で、子どもたちはどんな世界を創造したいと思っているのでしょうか？今だからこそ、表したい思いが沸き上がってくるのではないのでしょうか。子どもたちの思いを見えるものにする。ここにこそ、私たちの支援が必要なのです。

本小冊子は、教育現場の大きな変化のうねりの中で、図画工作という教科を通して子どもたちを育んでいこうと地道に努力されている先生方のヒントになればと作成されたものです。お手に取っていただけたら幸いです。



● 図工室を活用しよう

教室ではなく図工室で図工の授業をするというだけで、子どもたちの期待感が高まるような、そんな特別な場所をつくれたらいいですね。材料や用具がいっぱいあって、これで何ができるかなとわくわくする。作品や資料が掲示されていて、ときには不思議なものや面白いものが何気なく置いてある。子どもたちの発想に結びついたり、想像力を刺激したりするようなそんな場所をつくってみませんか。

図工の目標を掲げよう

教室には、学年やクラスの目標を掲げていることが多いです。

それなら、特別教室にもそれぞれ目標が掲げられていてもいいのではないのでしょうか。

図工室ではどんな目標を掲げるのがふさわしいか考えてみましょう。

- ◇ 君だけのアイデア
- ◇ 君だけの計画
- ◇ 君だけのつくり方

「自分を大切に」というせまり方

- 君もステキ、私もステキ
- みんなそれぞれステキです
- さあ、みんなのステキを発見しよう

「友達のよさも発見できるように」というせまり方

図工室の椅子を活用しよう

のこぎりは引くときに力が必要です。木材をしっかり押さえないと、きちんと切れないだけでなくのこぎりも傷めてしまいます。そこで、椅子の天板の出っ張りを利用して木を押さえましょう。



きりで穴をあけるときは、椅子の穴や開口部を台として利用しましょう。

くぎを打つときは、床まで木が通っているところで打つのが正解です。

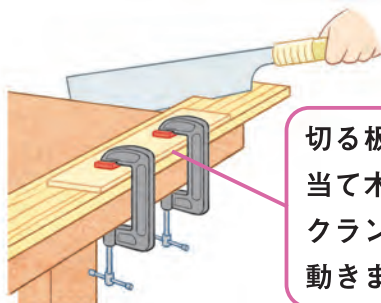


図工室の机も活用しよう

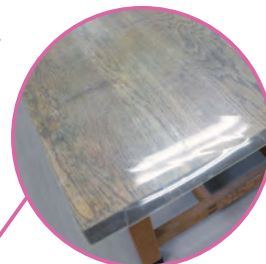
板や垂木を押さえるために、万力がついている場合はどんどん活用しましょう。

ない場合はクランプを使います。

板を押さえるときは雑巾などを敷くと安定します。



切る板に傷をつけないように当て木をしましょう。クランプを二つとめると板が動きません。



机の上に塩化ビニルなどの厚手のシートを敷くと、絵の具や版画インクなどのふき取りに便利です。

● 材料と用具を活用するために

表現するときに、材料や用具がとても重要なものであることは言うまでもありません。材料や用具との出会いは、ときに子どもたちの発想に結びついたり、製作の意欲の持続に関わっていたりします。一方で、形の違うものの保管、見直しや補充、先生が図工室や図工準備室にある材料や用具をすぐに見つけて使えるような状態にしておくことはなかなか大変です。

そこで、こうした材料や用具の管理のための重要なポイントを三つ挙げましょう。

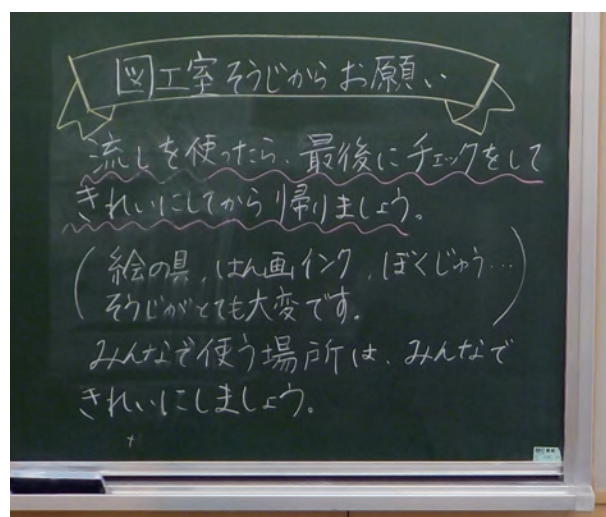
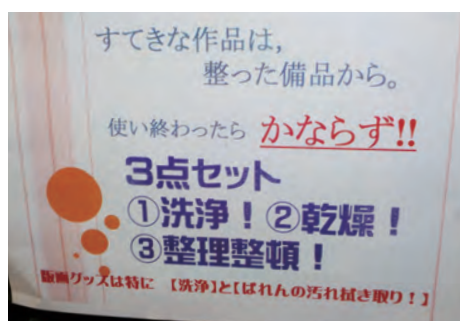
収納場所をわかりやすく示そう

材料や用具の種類別に表示し、取り出しやすいように収納することが大切です。今は、さまざまな収納用具が廉価で手に入るようになりました。それぞれに合った収納容器を探すのも楽しいですよ。



片づけ方のルールを示そう

子どもたちだけでなく先生方の協力も不可欠です。ときには、職員会議の場などでも呼びかけましょう。



材料を大切に保管しよう

壁面などのスペースも利用するなどして、使えそうな材料を適切に保管しましょう。製作中の子どもたちが周囲を見回して、「あの材料も使ってみたい!」と材料を見つけられるように心掛けましょう。

校庭のフェンスに巻きついていたつるを壁面を使って保管しています。



● 活用できる板書を目指そう

絵や立体、工作に表す活動において、本時のねらいや活動の進め方などをしっかりと確認して共有することは、子どもたちが主体性をもって表現活動に取り組む基盤となります。板書は子どもたちにとってわかりやすく、表現活動の途中でも板書を見て学習内容を確認したり思考の整理をしたりできるような構成を心掛けましょう。

そのためにも、パターン化すべきところと、発見したことや感想などをフレキシブルに書き込んでいくところとをうまく組み合わせた「活用できる板書」を目指しましょう。

造形遊びをする活動の場合は、板書に題材名だけを示して自由な発想を促す方が効果的です。

パターン化して示す内容

学習目標や活動の進め方などは、板書の中で示す場所を固定しておく子どもたちが理解しやすくなります。

題材名や学習目標：目立つようにチョークの色を変えたり、四角で囲んだりする。
活動の進め方や製作のポイント：簡潔に示して、見通しをもたせる。

フレキシブルに書き込む内容

子ども自らが表現の手掛かりを発見できるように、子どもたちの気づきや感想などを積極的に取り上げ、整理しながら板書に書き加えましょう。

発見したことや感想など：表現の手掛かりになるようなワードを拾い上げて書いたり、線でつないで関係性を示したりする。

《絵や立体、工作に表す題材の板書例》 4年生：初めて木版画を製作する題材の場合

ほって表す不思議な花

今日のめあて：ちょうこく刀の使い方になれ、ほり方や刷り方をくふうしよう。

進め方

- 1 参考作品を見よう
- 2 ちょうこく刀の種類と安全な使い方を知ろう。
- 3 ためしほりをしよう。
- 4 ためし刷りをしよう。
- 5 みんなで、できたものを見合おう。
- 6 協力して、あとかたづけ。



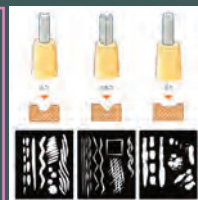
自分は、どんな花を表そうかな？（次時）



ちょうこく刀の前に手を出さない！
ほる向きを変えるときは版木を回す！
まわりに人がいないか注意する！

みんなの感想

- 細い線が、すどくてきれい。
- 白い部分が目立つ。
- グラデーションの色が美しい。
- 形が面白くて不思議な感じがしてくる。



やわらかい
すどとい
広い・あらい

● 校内の環境を生かした展示をしよう

子どもたちの作品を、教室や廊下などの掲示板だけに展示していませんか。周囲を見渡してみると、もっと作品が映える展示場所が見つかるものです。校内の環境を見直して、作品のよさを広く伝える工夫をしてみましょう。作品が残らない造形遊びの題材でも、活動を再現することはできます。記録した写真や表現の一部を使って生き生きとした取り組みを紹介できるといいですね。

展示の際には教職員の間でよく相談し、他学年との調整や安全面などを考慮して行いましょう。また、学校全体で作品鑑賞の際のマナーについて、しっかりと理解を深めておくことも大切です。



展示場所を選ぶ際のポイント

- 作品のよさや特徴が十分に生かせる。
- 環境がそのテーマとのつながりを連想させる。または、イメージの広がりを促す。
- 作品を展示することで、いつもと違った非日常的な雰囲気を楽しむことができる。
- 学年に関係なく、多くの児童が作品を鑑賞することができる。
- 作品を展示しても、校内での生活に支障がなく、安全である。

● 作品を大切にする姿を見せよう

作品カードにコメントを添えよう

作品を展示する際には、題名や作品に対する児童の思いなどを書いた「作品カード」を付けましょう。「作品カード」を読むことで、作者児童が製作過程で工夫したところなどを深く理解することができます。そして、教師が見取った表現のよさや頑張った点などをコメントとして書き加えてあげましょう。共同製作の場合も作品全体へのコメントがあるといいと思います。教師の一言が児童の表現意欲を高めるだけでなく、作品を大切にしようとする心情を育むことに繋がります。造形遊びなど作品が残らない活動の場合は、写真などを使ってカードとともに記録を残すといいですね。



さくひんの だいめい ぐるぐるの にじ	ぐるぐるぐるーり おおきな にじで みんなが あそぶよ。 にじを なにいろにするか かんがえながら いたよ。
1ねん 3くみ 5ばん なまえ おおの みき	

きれいな にじと たのしそうに あそんでいる ともだちの ようすを
がようし いっぱい に かけましたね。とても カラフルで きれいな にじです。

賞味期限内に返却しよう

作品の展示には「賞味期限」があります。いつまでも展示したままにせず、子どもたちの興味や関心が薄れてしまう前に、期限を決めて作品を返却するようにしましょう。家に持ち帰っても作品への思いを持ち続けられるように、持ち帰りの方法も工夫しましょう。

まずは、私たち教師自身が子どもたちの作品を大切にする姿を見せることが肝心です。「作品はその人そのもの。作品を大切にすることは、その人を大切にすることだ。」ということ、子どもたちにしっかりと伝えていきたいものです。

平面作品を折らずに持ち帰れるよう、作品バッグを活用しましょう。段ボール箱をたたんで入れると補強ができます。



立体作品を包むための梱包材も活用しましょう。新聞紙は紙粘土などにインクが写ってしまうので、作品に直接触れないように注意しましょう。



● あとがき

本小冊子は、図画工作科を指導するにあたっての身近で取り組みやすい工夫を改めて提案したものです。図工室でできること、材料や用具のこと、資料の提示や作品の扱い、校内の鑑賞コーナーなど、それぞれの学校ですでに取り組まれていることをふり返っていただいたり、さらにひと工夫したりするために、参考にしていただければとてもうれしく思います。

冊子をつくるにあたって、仙台市小学校図画工作研究会の紀要「ぞうけい」をおおいに参考にさせていただきました。昭和56年度(1981年度)創刊の「ぞうけい」は、2019年度発刊のものまで38号を数えます。図画工作科のよさや楽しさをよくわかっておられた諸先輩の残されたものは、生き生きと図工に取り組む子どもたちの姿が見えるような実践にあふれています。本小冊子に載せた内容はそうした多くの先生方の知見を参考にさせていただいて

おります。学習指導要領が変わっても、子どもに寄り添ったすぐれた指導や支援は色あせることはありません。

コロナ禍の「集まらない」「出かけられない」「触れあえない」「マスク越しの顔しか見えない」という中で、授業や研究会が思うようにできなかったときを経て、先生方は今何を感じられているのでしょうか？タブレット端末を活用したり、展覧会の鑑賞をオンラインで行ったりするなど、こういった状況下でもそれを生かして新たな取り組みを行っている先生方も多くいらっしゃると思いますが、一方でもう一度、原点に立ち返って図画工作を見つめるのもいいのではないのでしょうか。「ぞうけい」を引っ張り出して読み返しながら、そんなことを考えていました。

楽しく造形活動ができるかけがえのない日常のために、地道で当たり前のことに、今、取り組んでみませんか。

執筆

よこやま み き こ
横山 美喜子

(東北生活文化大学 美術学部 美術表現学科 非常勤講師／元 仙台市立南材木町小学校 校長)

たけだ さ な え
武田 早苗

(東北生活文化大学 短期大学部 生活文化学科 子ども生活専攻 特任教授／元 仙台市立柊江小学校 校長)

※本冊子は「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

楽しく「造形活動」ができる
かけがえのない日常のために

2023年3月31日発行



開隆堂出版株式会社

非売品

本社／〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03-5684-6111(代表)
東北支社／〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル 4F ☎ 022-742-1213